授業科目　神経科学

【担当教員名】	対象学年	2	対象学科	理学・作業・言語・義肢
今村　徹	開講時期	前期	必修選択	必修
	単位数	1	時間数	（履修上の留意点を参照）

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎			○

【概要】

『神経科学』は「神経」の「科学」を学ぶ科目ではない．神経系の正常機能と構造の知識，すなわち神経生理学と神経解剖学に裏付けられた論理的な思考によって，神経系の障害による症状と疾患のメカニズムを理解できることを目標とする科目である．１年次の『生理学』および『解剖学』の学習内容を始めとする神経生理学・解剖学の知識・理論と神経症状・疾患のメカニズムは密接に結びついている．したがって『神経科学』はこれら１年次の学習を後継する科目であると同時に，２年次後期に開講する『臨床神経学』の先行科目でもある．

授業の題材は神経系の症状と疾患である．１セッション（計２～３日間）の授業は演習と講義の両方から成っている．各セッションでは（１）神経生理学・神経解剖学．（２）実際の臨床場面で用いられる診察・検査法，（３）代表的な症状・疾患の理解，にいたるまでを一連の流れとして学ぶ．授業中の演習課題とともに，予習項目と復習課題を授業ごとに指示する．

【学習目標】

神経症状や疾患を逐次的に暗記することは求めない．論理的な思考によって神経症状と疾患のメカニズムを理解することが目的である．個別の学習目標は下記のセッションごとに配布資料の中で提示する．

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
	以下の主題を扱う３つのセッションを行う．具体的な日程などは学期の初めに行なうオリエンテーションで呈示する．		
	（１）脳		
	１）頭蓋内中枢神経系の運動系と体性感覚系の解剖学，頭部 MRI，MRA 画像検査		演習、担当：今村　徹
	２）虚血性脳血管障害		講義と演習、担当：今村　徹　他
	３）出血性脳血管障害		講義、担当：今村　徹
	（２）脊髄		
	１）筋伸張反射		演習、担当：今村　徹　他
	２）上位運動ニューロン，体性感覚系と脊髄の解剖学・生理学		講義と演習、担当：今村　徹　他
	３）脊髄疾患		講義と演習、担当：今村　徹
	（３）末梢神経		
	１）神経伝導速度検査		演習、担当：今村　徹　他
	２）下位運動ニューロンと末梢神経の解剖学・生理学		講義、担当：今村　徹
	３）末梢神経疾患		講義、担当：今村　徹

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格 他＞
教科書 （必ず購入する書籍）	簡要神経学（第４版）	岩田誠、岩田淳訳	MEDSI	2006・3,800 円＋税
	ベッドサイドの神経の診かた（改訂 16 版）	田崎義明、斎藤佳雄	南山堂	2004・7,200 円＋税
参考書	画像診断のため脳解剖と機能系	久留裕、真柳佳昭訳	医学書院	1995・19,000 円＋税・演習のグループに１冊貸与する
その他の資料	適宜配布する			

【評価方法】

授業中の課題と予習課題，復習課題の理解は演習においてグループ単位で評価する．この評価に合格した者に定期試験の受験を許可する．
最終的な成績評価は定期試験の成績による．
課題と試験のすべてにおいて，知識・理解とともに科学的な思考・判断の能力を求める．

【履修上の留意点】

本授業科目は講義部分と演習部分を含んでいる．講義部分は 15 時間を，演習部分は 30 時間を１単位とみなし，講義と演習の合計時間が所定単位と一致するように授業を行う．